

令和 2 年 7 月 1 日現在

機関番号：25201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2019

課題番号：25862237

研究課題名（和文）精神障がい者の就労を促進する農福“医”連携の構築

研究課題名（英文）Construction of agricultural and welfare and medical cooperation to promote employment of people with mental disabilities

研究代表者

松谷 ひろみ (Matsutani, Hiromi)

島根県立大学・看護栄養学部・助教

研究者番号：10642655

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では精神障がい者の園芸・農作業を通して育まれた就労に関するエンパワメントを明らかにし、農福“医”連携モデルの作成に向け支援者の効果的な関わりを検討した。『自己効力感が高められること』『将来起こりうることが予期できること』等の3点が就労に向かうために必要な核であり、『(a)自分のできる部分・できない部分を認める』『(b)疾患に対する自分なりの対処行動を習得する』等の5点が就労を継続するために必要な核であった。就労に向かう前段階の支援、農業分野で就労継続するための支援、疾病管理の支援等において8点の核を意識した関わりが必要である。そして農福“医”モデルの構築をさらに進めていく必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究における精神障がい者の園芸・農作業を通して育まれた就労に関するエンパワメントの明確化は、パワフルな存在と捉えられやすい精神障がい者を潜在的な力持った者であるという見方への変換につながる一助となる。そして、エンパワメントを促進させる効果的な関わり方を示すことで、農作業に取り組む精神障がい者に関わる農業スタッフや福祉スタッフの不安を軽減することに繋がるとともに、精神障がい者の就労環境の改善が図られることで、精神障がい者の作業効率・生産性の向上につながる。それらは、精神障がい者の自信となり、就労継続につながることを期待される。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the empowerment of working for people with mental disabilities who have been nurtured through horticulture and agricultural work. And we examined the effective involvement of supporters toward the creation of a model for agricultural and welfare and medical collaboration. Three elements such as "(1) enhancing self-efficacy" and "(2) what can happen in the future can be expected" are the cores necessary for working. Five elements such as "(a) recognize what you can and cannot do" and "(b) mastering coping behavior for the disease" were the cores necessary to continue working. It is necessary to be involved in eight core elements in support in the pre-employment stage, support for continuing work in the agricultural field, and support for disease management. It is necessary to further promote the construction of the agricultural and welfare and medical model.

研究分野：精神看護学

キーワード：精神障がい者 エンパワメント 農福連携

から種の収穫まですべての工程を体験した。研究協力者およびその他スタッフが、対象者の園芸作業を支援し、それ以外の栽培管理（水やり等の日々の世話）は、病院スタッフが中心となって対象者の栽培管理を支援した。

調査内容・分析方法

すべての園芸作業が終了した後に、研究対象者へ半構成的にインタビューを実施した。園芸作業に継続して参加した経過を振り返りながら、「朝顔栽培をして良かった点、関心を持った点」、「半年間、この取り組みが続けられた要因」、「自分ができるようになった点や成長したと思う点」などを中心に質問し、対象者に自由に語ってもらった。1回のインタビュー時間は30分とし、インタビュー内容は承諾を得てICレコーダーに録音した。データの分析には、ベレルソンの内容分析を用いてカテゴリ化を進め、カテゴリ、サブカテゴリ毎の記録単位数を算出した。

(3) 研究2

研究対象者

就労継続支援B型事業所において農作業に継続して参加している精神障がい者のうち、施設管理者から研究者へ対象者として紹介することに本人が納得し、説明により同意を得られた14名とした。

調査内容・分析方法

研究対象者へ半構成的インタビューを実施し、「就労の場において農作業をする中で自分にどんな力がついたと感じるか」などについて自由に語ってもらった。分析方法は、インタビュー内容を逐語録とし、農作業を通して育まれた就労継続につながるエンパワメントに関する語りを抽出した後、内容の類似性と相違性に留意してカテゴリを抽出した。

4. 研究成果

(1) 研究1

研究対象者は男性1名、女性5名の計6名であった。年齢は63～80歳（平均年齢69.0±5.74歳）、入院期間は1～37年であった。インタビュー時間は18～32分（平均時間21分33秒）であった。

対象者6名の回答は、72記録単位、6文脈単位に分割された。72記録単位を意味内容の類似性に基づき分類した結果、園芸作業を通して育まれた入院中の精神障がい者の就労につながるエンパワメントの成果を表す16サブカテゴリ、3カテゴリが形成された（表1）。3つの中核となるカテゴリの中で『自己効力感の高まり』が全記録単位の52.8%、『将来起こりうる事が予期できる』が26.4%、『他者へ関心が向く』が20.8%であった。『自己効力感の高まり』は【やりがい】、【満足感】、【責任感】、【心が穏やかになる】、【希望を抱く】、【コントロール感】、【次の課題を見出す】、【自己成長】、【自分の力の認識】の9サブカテゴリ、『将来起こりうる事が予期できる』は【成長への期待】、【予期不安】、【関心が湧く】の3カテゴリ、『他者へ関心が向く』は【他者との協働感】、【他者との一体感】、【他者とのコミュニケーション増加】、【他者からの評価を求める】の4カテゴリから形成された。

表1 園芸作業を通して育まれた精神障がい者の就労につながるエンパワメントの成果を表すカテゴリ・サブカテゴリと記録単位数

カテゴリ	記録単位数		サブカテゴリ	総記録単位数 72	
	記録単位数 (%)			記録単位数 (%)	
自己効力感の高まり	38	(52.8)	やりがい	7	(9.7)
			満足感	6	(8.3)
			責任感	5	(6.9)
			心が穏やかになる	5	(6.9)
			希望を抱く	5	(6.9)
			コントロール感	3	(4.2)
			次の課題を見出す	3	(4.2)
			自己成長	2	(2.8)
			自分の力の認識	2	(2.8)
将来起こりうる事が予期できる	19	(26.4)	成長への期待	8	(11.1)
			予期不安	7	(9.7)
			関心が湧く	4	(5.6)
他者へ関心が向く	15	(20.8)	他者との協働感	5	(6.9)
			他者との一体感	4	(5.6)
			他者とのコミュニケーション増加	4	(5.6)
			他者からの評価を求める	2	(2.8)

3つのカテゴリは園芸作業を通して育まれた入院中の精神障がい者の就労につながるエンパワメントの成果の中核となるものであると考えられた。精神障がい者は園芸作業を通して自己効力感が高まることで、就労への準備性も高まる可能性が示唆された。また、現実的なイメージが持ちやすいために作業の継続につながりやすいこと、他者のできる力の発見、そして自己の開放性の高まりなどにつながっていると考えられた。

精神障がい者に関わる看護者を含む医療・福祉スタッフは、精神障がい者が、自分自身の力で自分をエンパワメントすることができる存在であるということ認識して関わっていく事が求められる。それとともに、医療・福祉スタッフは園芸作業を通して生まれた就労につながるエンパワメントの成果の中核となる『自己効力感の高まり』、『将来起こりうる事が予期できる』、『他者へ関心が向く』の3点を意識しながら、精神障がい者の就労につながるエンパワメントを促進する支援をしていくことが望まれる。

(2) 研究2

研究対象者は男性11名、女性2名の計13名であり、平均年齢40.31±9.40歳であった。疾患名は統合失調症6名が最も多かった。平均事業所利用月数22.8±15.56月で、全員過去に就労経験があった。

分析の結果、131コード、11サブカテゴリが抽出され、「前に向かう意欲を持つ」「自分のありのままを受け入れる」「他者を仕事仲間として認める」「働く者としての意識を持つ」「自分なりの対処行動を取得する」の5カテゴリに集約された(表2)。

表2 農作業を通して生まれた精神障がい者の就労継続につながるエンパワメント

カテゴリ	サブカテゴリ
前に向かう意欲をもつ	農作業を通じた喜びを得る
	農作業の中でやりがいを見出す
	一歩踏み出す力が出る
自分のありのままを受け入れる	できる自分に気づき認める
	今の自分を自然に受け入れる
他者を仕事仲間として認める	自分の居場所として認識できる
	他者を仕事仲間として認識する
働く者としての意識を持つ	自分のやるべきことに取り組むことができる
	先を見据え広い視野を持つ
自分なりの対処行動を取得する	病気との付き合い方を習得する
	自分の認知の切り替えができる

就労継続支援B型事業所にて農作業に取り組む精神障がい者は、農作物が成長すること・人に食べてもらえることでの喜びや自身のやりがいを得る、農作業に付随した作業工程の中で得意な作業を見出す、難しい作業の中に面白さを見出すといった、農作業の一連の流れの中で「前に向かう意欲をもつ」ことを育てていたことが本研究の特徴的な結果であった。農作業の「場」を活かし、精神障がい者が精神症状と上手く付き合いながら、自身の力を発揮し、希望や意欲を持って就労していけるように医療者としてどのように支援していけるか検討していくことが求められる。

(3) 農福連携において従事する精神障がい者への支援者の効果的なかわり方への示唆

今までの園芸作業・農作業を通して生まれた精神障がい者のエンパワメントに関する研究結果から、『(1)自己効力感が高められること』『(2)将来起こりうる事が予期できること』『(3)他者へ関心が向くこと』の3点が精神障がい者の就労に向かうために必要となる核であると考えられた。また、『(a)自分のできる部分・できない部分を認める』『(b)疾患に対する自分なりの対処行動を習得する』『(c)働く者としての自負をもつ』『(d)前に向かう意欲をもつ』『(e)他者を仕事仲間として認識する』の5点が精神障がい者の就労を継続するために必要となる核であると考えられた。以上の結果を基礎資料とし、農福“医”連携モデル案作成に向けての効果的なかわり方について検討した。まず、精神障がい者が就労に向かう前段階の支援として、病院入院中または地域で支援サービスを受けている時点から『(1)自己効力感が高められること』『(2)将来起こりうる事が予期できること』『(3)他者へ関心が向くこと』を意識した支援を医療分野の看護職が行っていくことが求められると考えた。また、農業分野で就労を継続していくための支援として、その人の強みに着目し仕事をするための生活を整えていくために『(a)自分のできる部分・できない部分を認める』『(c)働く者としての自負をもつ』『(d)前に向かう意欲をもつ』『(e)他者を仕事仲間として認識する』を意識した支援を農業分野、福祉分野、医療分野が共通認識をして行っていくこと、そして疾患管理のための支援として『(b)疾患に対する自分なりの対処行動を習得する』を医療分野の看護職が行うとともに、福祉分野、農業分野へ情報提供していくことが求められる。これらの検討結果を、農福“医”連携モデル作成に反映し、今後の研究において、農福“医”モデルの構築をさらに進めていく予定である。

<引用文献>

- 独立行政法人農業食品産業技術総合研究機構農村工学研究所(2009): 農業分野における障害者就労マニュアル, 平成 20 年度農村生活総合調査研究事業報告書 .
- 内閣府(2011): 障害者白書平成 23 年版,
http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h24hakusho/zenbun/pdf/h1/2_1.pdf(2019.9.14 参照) .
- 厚生労働省(2008): 身体障害者,知的障害者および精神障がい者就業実態調査の結果について,
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/01/dl/h0118-2a.pdf> (2019.9.14 参照) .
- 松谷ひろみ, 石橋照子(2017): 園芸作業を通して育まれた精神疾患患者の就労につながるエンパワメント, 日本医学看護学教育学会誌, 26(2), 14-20 .
- 和田由佳, 石橋照子, 神門卓巳他(2011): 精神科病院における朝顔栽培の取り組みとその効果, 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要, 6, 33-4 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松谷ひろみ	4. 巻 26-2
2. 論文標題 園芸作業を通して育まれた精神疾患患者の就労につながるエンパワメント	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本医学看護学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松谷ひろみ, 石橋照子	4. 巻 7
2. 論文標題 精神疾患患者のエンパワメントと園芸作業への継続参加の関係	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 島根看護学術集会論文集	6. 最初と最後の頁 37-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松谷ひろみ, 石橋照子
2. 発表標題 労継続支援B型事業所での農作業を通して育まれた精神疾患患者の就労継続につながるエンパワメント
3. 学会等名 第30回日本医学看護学教育学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松谷ひろみ, 石橋照子
2. 発表標題 精神疾患患者のエンパワメントと園芸作業への継続参加の関係
3. 学会等名 第7回島根看護学術集会
4. 発表年 2013年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----